



滋賀県「やまの健康」モデル地域 高島市南深清水地域 令和2年度～令和4年度

やまの健康宣言

この宣言は、滋賀県「やまの健康」推進プロジェクトにおいて令和2年10月から令和3年1月にかけて開催した地域プラットフォームの協議により作成されました。

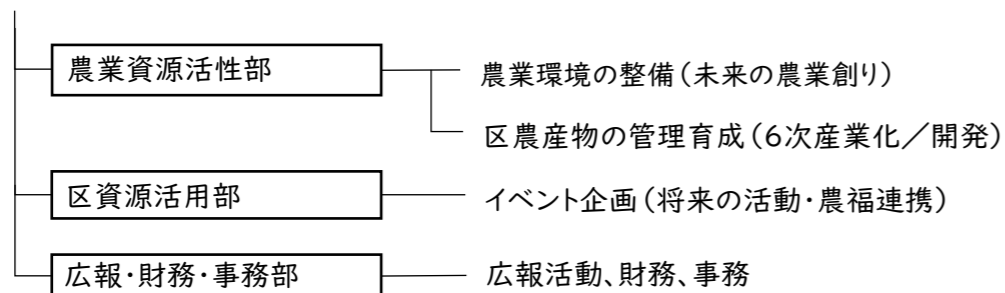
四季折々の自然が満喫できる
極上の癒し空間 高島市・南深清水



高島市南深清水地域「やまの健康」宣言 令和3年(2021年)1月発行

【推進体制／役割】

南深清水FF倶楽部 代表 桂田 隆司



～私たちと一緒に活動してくれる仲間募集中!!地域の情報はInstagramでも発信しています～

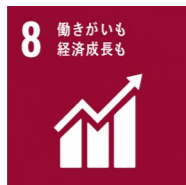
https://www.instagram.com/fukashimizu_olive/



私たちの取組はSDGsにも通じています。



生涯を通じた“からだところ”の健康づくり



喜びを感じながら働き、活躍できる環境づくり



地域資源や自然の恵みを活用した仕事づくりや交流の取組



持続可能な目標を達成するために協力しましょう

健康×観光=ウェルネスツーリズム実現 高島市南深清水地域

南深清水地域のこと

もっと多くの人に地域の魅力を知ってもらいたい！

人口：158人（66世帯）

位置：大津市内から湖西道路を北上した、びわ湖に面する高島市にあります。

特徴：水はけのよい扇状地を有し、約100年も続く県内随一の柿の産地であり、見渡す限り一面に広がる柿畑は、冬場の落葉したシーズンであっても圧巻の景色です。

地域の取組：健康と美容に効果があるオリーブ栽培を3年前から始めていて、地域の新たな魅力として発信しています。

ここが南深清水地域の魅力



柿の収穫

県内随一の柿の産地

柿祭りや柿を使った商品開発等を通して地域との連携や産官学連携も行っています



夫婦桜

四季折々の景観

四季折々の景観を楽しめますが、特に春に咲き誇るエドヒガンの夫婦桜が有名です



オートキャンプ

ビラデスト今津

標高550mの山頂に建つ、季節を体感できる総合アウトドア施設です



森林セラピー

びわ湖の絶景

日本最大の面積と貯水量を誇ります。びわ湖は景観だけでなく、湖の幸も豊富です

豊富なアウトドアアクティビティ

山、森、湖、空、土等アウトドアアクティビティに最適な環境です



南深清水地域はこの辺り

山

里

湖

竹生島

伊吹山

高島市

『未来（あした）の私に出会う場所 ワク湧くきらり深清水』

私たちは、地域の資源を活かした以下の取組により、南深清水地域の住民が未来に希望を持ち、心身ともに健康になる地域を目指します。

また、これらの地域の取組をウェルネスツーリズム構想として、地域外の方にも発信し、極上の癒し空間を提供できる地域を目指します。

Action 1 『食』

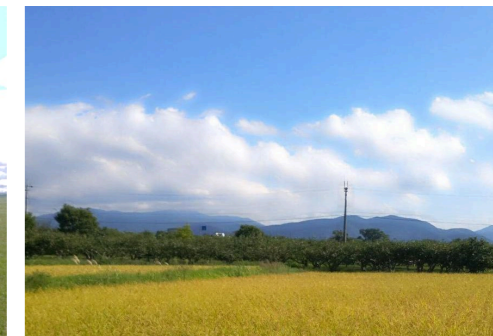
- ▶ オリーブ栽培に取り組み、特産品の柿とオリーブで「健康」に役立つ新たな商品開発、また6次産業化にも取り組みます。
- ▶ 自然の中で栽培する果樹や野菜の魅力発掘に取り組みます。

Action 2 『運動』

- ▶ 自然を活用し、フットパス、ビラデスト今津の森林を使った自然体験、びわ湖でのレジャー体験で、楽しい休日ライフと健康な心身づくりの機会を提供します。

Action 3 『観光』

- ▶ 知られていない四季、美しい景観をインスタ映えする写真スポットとして整備し、来訪者誘致に取り組みます。
- ▶ 美味しい野菜づくりの魅力を伝える農業体験に取り組みます。
- ▶ 野生鳥獣被害の防止対策と景観の維持のため、森林空間の整備に取り組みます。



Action 4

ウェルネスツーリズム南深清水モデルプランの作成

Action1~3の各地域資源をコンテンツ化し、目指す地域の将来像を実現するため『未病、統合医療』という考え方や『農泊等のツーリズム要素』を盛り込み、点在する3つのActionを面にするためにウェルネスツーリズム南深清水モデルプランを作成します。

Action 5

SNSやHP等を活用した効果的な魅力発信

Action4で作成した、ウェルネスツーリズム南深清水モデルプランや南深清水について、地域だけでなく産官学連携等も行いアカデミックなアイデアも取り入れながら、SNSやHP等を活用した効果的な魅力発信を行います。訪れた人が楽しみながら健康になれる地域という魅力を伝え、関係人口の増加を目指し移住者を誘致します。

地域の抱える課題

□高齢化による耕作放棄地の増加、山の管理不足による野生鳥獣被害の増加

生産者の高齢化により手間暇をかけて育てる柿の生産を行うことがだんだん難しくなり、それに伴って耕作放棄地が増え、山の管理が行き届いていないことによる野生鳥獣被害が増加しています。

□『食』に関するブランド化と魅力発信が図られていない

県内随一の産地で、県内の出荷量の6割を占めており食味もよいと評価されている柿ですが、地域外での認知度はそれほど高くありません。他にもそばや湖の幸、発酵食文化、近年栽培をはじめたオリーブ等『食』に関する地域資源は多くありますがブランド化と魅力発信が図られていません。

□『運動』や『観光』に繋がる豊富な地域資源が活用しきれていない

四季折々の景観や山、森、湖、田畑をはじめとした豊富な自然は、『運動』や『観光』に繋がる地域資源として期待できますが、十分活用しきれていないのが現状です。